

仏徳山興聖禪寺は恵心院の南に隣る。曹洞宗にして、開基は道元和尚なり。仏殿には釈迦仏を安置す。額「興聖宝林禪寺」青蓮院尊純法親王の筆なり。当寺ははじめ深草里にあり。「今墨染の南欣浄寺の境内、此寺の旧地なり」正保年中万安和尚中興して、諸堂は淀城主永井直政の建立なり。川岸より門前までを琴坂といひ、左右に桜紅葉をうゑて山吹を透垣とし、朝日山を庭中にとり、白槇を繞ては龍虎をつくり、姫躑躅咲みだれては宇治の川瀬の篝火と疑ふ。されば法を聴て龍の室に入、床を敲て虎の堂に升るとは、此禪刹のことなるべし。

山吹や宇治の焙炉の匂ふ時

は せ を